



令和3年2月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和3年4月9日

上場会社名 株式会社ブロッコリー

上場取引所

東

コード番号 2706 URL <https://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 善之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員コーポレート本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6685-1366

定時株主総会開催予定日 令和3年5月27日

配当支払開始予定日

令和3年5月28日

有価証券報告書提出予定日 令和3年5月28日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年2月期の業績(令和2年3月1日～令和3年2月28日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年2月期	6,306	△2.7	967	42.2	999	42.1	521	37.9
2年2月期	6,479	8.4	680	△15.9	703	△15.7	378	△31.2

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
3年2月期	59.66	—	5.4	9.2	15.3
2年2月期	43.25	—	4.0	6.7	10.5

(参考) 持分法投資損益 3年2月期 一百万円 2年2月期 一百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
3年2月期	10,977	9,749	88.8	1,114.54
2年2月期	10,737	9,453	88.0	1,080.70

(参考) 自己資本 3年2月期 9,749百万円 2年2月期 9,453百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
3年2月期	453	△3,486	△229	3,621
2年2月期	480	2,578	△231	6,883

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当 率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2年2月期	—	0.00	—	26.00	26.00	227	60.1	2.4
3年2月期	—	0.00	—	26.00	26.00	227	43.6	2.4
4年2月期(予想)	—	0.00	—	26.00	26.00		50.5	

令和4年2月期(予想)の配当性向は、50.5%となります。

3. 令和4年2月期の業績予想(令和3年3月1日～令和4年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	△4.9	700	△27.7	730	△27.0	450	△13.8	51.45

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	3年2月期	8,747,642 株	2年2月期	8,747,642 株
② 期末自己株式数	3年2月期	372 株	2年2月期	372 株
③ 期中平均株式数	3年2月期	8,747,270 株	2年2月期	8,747,270 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 1.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成されたものでありますが、業績等につきましては様々な要因により、今後大きく異なる可能性があります。
- 2.当社は、「財務諸表等規則」に従い財務諸表を作成しております。
- 3.当社は、令和元年8月30日に株式会社LANTERN ROOMSの株式を100%取得したことに伴い、同社を子会社化しておりますが、資産、売上高、損益、利益剰余金に及ぼす影響が僅少であり、現時点では重要性が乏しいため、非連結子会社としております。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財務状態に関する分析	3
(3) 今後の見通し	4
(4) 利益配分に関する基本方針及び当期配当	4
2. 経営方針	5
(1) 会社の経営の基本方針	5
(2) 目標とする経営指標	5
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
4. 財務諸表及び主な注記	6
(1) 貸借対照表	6
(2) 損益計算書	8
(3) 株主資本等変動計算書	10
(4) キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報等)	13
(持分法損益等)	13
(1株当たり情報)	13
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

当社が属するエンターテインメント業界では、国内外のスマートフォンゲーム市場の成長・国内家庭用ゲーム市場のゆるやかな拡大を背景に、ゲームコンテンツ市場と関連するキャラクター市場が世界的にも長期的に高成長が続くと見込まれておりますが、令和2年に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により経済活動が停滞し、令和3年に入りましても、一部では持ち直しの動きが見られますが、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような状況下における、当事業年度（自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日）の経営成績概況は、以下のとおりであります。

まず、「うたの☆プリンスさまっ♪」におきましては、10周年スペシャルコンセプトショップ「All-Star Shop」を7月より開催、12月からは原宿・名古屋・大阪・仙台の4か所にて「SHINING STORE」を開催。また、9月にステッドラー日本株式会社とのコラボレーションアイテム「うたの☆プリンスさまっ♪ SHINING MUSEUM 水彩色鉛筆」を発売し大変なご好評をいただきましたことで、関連グッズの売上高・売上総利益は、前年並みに確保することが出来ました。

関連ゲームアプリ「うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live」の売上高・売上総利益につきましては、前年をやや下回る結果となりました。

関連ゲームでは、5月に「うたの☆プリンスさまっ♪ Amazing Aria & Sweet Serenade LOVE for Nintendo Switch」を発売、2月に「うたの☆プリンスさまっ♪ Debut for Nintendo Switch」を発売いたしました結果、前年を大きく上回る売上高・売上総利益を確保いたしました。

関連CDでは、4月に「うたの☆プリンスさまっ♪『Another World～WHITE&BLACK～』」のテーマソングを発売、8月にHE★VENS初の本格ドラマCDを発売。9月に10周年を彩る3グループの超豪華シングルを発売、12月にShining LiveドラマCD「饗宴の奏鳴曲（ソナタ）」を発売、2月よりQUARTET NIGHTメンバーによるアイドルソング計4作のうち2作を発売いたしました。これらの結果、劇場版関連CDを発売した前年には至りませんでした。見込みを大きく上回る売上高・売上総利益を確保いたしました。

他社ライセンスグッズでは、2020年9月にうさぎのぬいぐるみシリーズ「ラビコレ」の第1弾『刀剣乱舞-ONLINE-』（全11種）を発売。大変なご好評をいただき、ブロッコリーオフィシャルストアで令和3年4月までの期間限定受注生産も行っております。

また、株式会社 丸井グループ開催のイベント「呪術廻戦 limited shop -マルイ編-」にて呪術廻戦グッズを発売。こちらも大きな反響をいただきましたこと等により、他社ライセンスグッズは前年を上回る売上高・売上総利益を確保いたしました。

トレーディングカードゲーム「Z/X -Zillions of enemy X-（ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス）」（以下、「Z/X（ゼクス）」）は、第3四半期に新規ユーザーだけでなく、復帰ユーザーの要望にも応えるカードパック EXパック 第23弾「ゼクメモ！」を発売、また、1年を通してオンラインイベント開催や関連商品の通販強化を行ったこと等により、前年並みの売上高・売上総利益を確保いたしました。

販売費及び一般管理費につきましては、販促費の圧縮を図りました結果、1,366百万円（前期比12.7%減）と抑制することができました。

この結果、当事業年度の売上高は6,306百万円（前期比2.7%減）、営業利益967百万円（同42.2%増）、経常利益999百万円（同42.1%増）となりました。

また、3月30日に発表いたしました「特別損失の計上及び通期業績予想の修正と次期の通期業績予想に関するお知らせ」のとおり、自社で開発を進めておりますゲームコンテンツにおいて一部ソフトウェア仮勘定の減損損失244百万円を計上いたしましたことで、当期純利益は、521百万円（同37.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は8,253百万円で、前事業年度末に比べ24百万円増加しております。主な内容は、商品及び製品の増加145百万円、仕掛品の増加57百万円、前渡金の増加8百万円、前払費用の増加160百万円などの増加要因に対し、現金及び預金の減少262百万円、売掛金の減少93百万円などの減少要因であります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は2,723百万円で、前事業年度末に比べ214百万円増加しております。主な内容は、ソフトウェア仮勘定の増加181百万円、投資その他の資産の増加66百万円などの増加要因に対し、有形固定資産の減少26百万円などの減少要因であります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は1,132百万円で、前事業年度末に比べ64百万円減少しております。主な内容は、未払消費税等の増加59百万円、未払法人税等の増加28百万円、返品調整引当金の増加4百万円、賞与引当金の増加3百万円などの増加要因に対し、預り金の減少58百万円、未払金の減少28百万円、買掛金の減少27百万円、前受金の減少26百万円、役員賞与引当金の減少19百万円などの減少要因であります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は95百万円で、前事業年度末に比べ8百万円増加しております。主な内容は、退職給付引当金の増加13百万円などの増加要因に対し、リース債務の減少2百万円などの減少要因であります。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は9,749百万円で、前事業年度末に比べ296百万円増加しております。これは、当期純利益521百万円が計上された一方で、剰余金の配当227百万円が行われたことが主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当事業年度においては、営業活動において453百万円の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）を獲得し、投資活動においては3,486百万円の資金を使用し、財務活動においては229百万円の資金を使用しました。この結果、資金は当事業年度末に3,621百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは453百万円の資金の増加（前事業年度は480百万円の資金の増加）となりました。主な内容は、税引前当期純利益の計上による755百万円、減価償却費の計上による90百万円、賞与引当金の増加額3百万円、返品調整引当金の増加額4百万円、退職給付引当金の増加額13百万円、売上債権の増加額99百万円、減損損失の計上による244百万円などのプラス要因と、貸倒引当金の減少額5百万円、役員賞与引当金の減少額19百万円、受取利息及び受取配当金の3百万円、たな卸資産の増加額206百万円、法人税等の支払額230百万円、その他の減少額239百万円などのマイナス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは3,486百万円の資金の減少（前事業年度は2,578百万円の資金の増加）となりました。主な内容は、貸付金の回収による収入9百万円などのプラス要因と、定期預金の預入による支出3,000百万円、無形固定資産の取得による支出447百万円、有形固定資産の取得による支出45百万円などのマイナス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは229百万円の資金の減少（前事業年度は231百万円の資金の減少）となりました。主な内容は、配当金の支払額226百万円、リース債務の返済による支出3百万円であります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成29年2月期	平成30年2月期	平成31年2月期	令和2年2月期	令和3年2月期
自己資本比率	92.3	89.7	90.5	88.0	88.8

時価ベースの自己資本比率	336.4	191.5	139.2	132.7	116.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ	497.0	714.1	1,772.1	1,724.7	3,443.3

(3) 今後の見通し

次期業績予想における新規コンテンツの動向といたしましては、本年3月18日に発売いたしました「ジャックジャンヌ」のニンテンドースイッチ用ソフトが本格的に始動しております。本作のプロモーションを積極的に推進し、「うたの☆プリンスさまっ♪」、「Z/X (ゼクス)」に続く収益の柱として成長させるべく邁進してまいります。また、前年度で10周年を迎えた「うたの☆プリンスさまっ♪」は、本年3月29日にお知らせいたしました新・劇場版の制作決定など、今後の新たな展開に向けた様々な施策も加速しており、引き続き当社業績の基盤として積極的な事業展開を続けてまいります。「Z/X (ゼクス)」につきましても、堅調なトレーディングカードゲームを基盤として次期の収益貢献を見込んでおります。

一方、3月30日に公表いたしました「中期経営計画の期間延長に関するお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、平成31年(2019年)4月12日に策定いたしました「中期経営計画」(2019年3月1日～2022年2月28日対象)におきまして、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大、長期化の影響を受けて、中期経営計画策定時に前提としていた事業環境が大きく変化し、経営環境への影響が見通せない状況が継続していることに加え、2020年2月期から2022年2月期までの3年間(2019年3月1日～2022年2月28日)で計画していた各種施策の遅れが生じたことから、現中期経営計画の期間を1年延長することといたしました。

本来最終年度でありました中期経営計画3年目の次期におきましては、この事業環境変化に応じて必要な対応を図り、中期経営計画の4年目及び将来の当社発展に向けた入念な準備を進める年度と位置づけております。

このような状況により令和4年2月期は、売上高6,000百万円、営業利益700百万円、経常利益730百万円、当期純利益450百万円となる見通しです。また、2024年2月期を初年度とする次期中期計画については、令和5年(2023年)春の公表を予定しております。

なお、上記の次期業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在に置ける仮定を前提としております。実際の業績等につきましては様々な要因により今後大きく異なる可能性があります。

(4) 利益配分に関する基本方針及び当期配当

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題のひとつとして認識し、適正な利益還元の観点から中長期的な事業展開に向けた将来性・収益性の高い分野への投資と強固な経営基盤の確立のための内部留保を図っていくとともに、今後、業績や配当性向を勘案しつつ、安定的かつ継続的な利益配分を行うことを基本方針といたします。具体的には、安定的な配当額として1株あたり年間26円を下限として維持するとともに、業績に連動した配当を行ってまいります。

令和3年2月期の利益配当金につきましては、普通配当金1株当たり26円を期末配当金とし、令和3年5月27日開催予定の定時株主総会にて付議する予定です。さらに中長期的に当社株式を保有する株皆様のご支援にお応えするとともに、今後ともより多くの株皆様に当社へのご理解とご支援を賜りたく、引き続き株主優待制度も継続してまいります。

2. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、リアルグッズ・メーカーとしての確実な収益確保をバックボーンとしつつ、コンテンツ・メーカーとして社会に向けての夢の発信と、クリエイティブな、そしてハイリターンを視野に入れたチャレンジを実行するという2つの戦略を高次元で両立させるツインエンジン化を、事業戦略の核としております。このツインエンジン化を軸として、すべてのステークホルダーの皆様にとって存在価値あるエンターテインメント企業であることを目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社は、当社の『提供価値』『存在価値』の追求、当社が保有する『強み』の追求、新しい『事業』『価値』の創造を基本戦略として、企業価値の向上に取り組んでまいります。従いまして、中期経営計画を確実な成果とし、長期的に安定した収益基盤を確立すべく、営業利益率を重要な経営指標として位置づけ、その向上に取り組んでまいります。

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び企業間での比較可能性を考慮し、日本基準を適用しております。

4. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年2月29日)	当事業年度 (令和3年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,883,807	6,621,667
売掛金	736,805	643,426
商品及び製品	156,626	302,297
仕掛品	310,185	367,801
原材料及び貯蔵品	2,748	4,196
映像コンテンツ	20,000	21,280
前渡金	14,760	22,844
前払費用	77,751	238,249
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	9,999	9,999
その他	19,316	24,767
貸倒引当金	△2,983	△2,629
流動資産合計	8,229,017	8,253,902
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,219,453	1,220,963
減価償却累計額	△262,315	△308,403
建物(純額)	957,138	912,559
機械及び装置	6,476	6,476
減価償却累計額	△3,401	△3,914
機械及び装置(純額)	3,074	2,561
車両運搬具	2,641	3,028
減価償却累計額	△2,641	△2,996
車両運搬具(純額)	0	32
工具、器具及び備品	128,834	156,547
減価償却累計額	△94,571	△114,215
工具、器具及び備品(純額)	34,263	42,332
土地	907,414	907,414
建設仮勘定	—	10,539
有形固定資産合計	1,901,891	1,875,439
無形固定資産		
ソフトウェア	61,262	55,008
ソフトウェア仮勘定	211,704	392,772
電話加入権	542	542
無形固定資産合計	273,509	448,323
投資その他の資産		
投資有価証券	3,116	5,464
関係会社株式	18,618	18,618
関係会社長期貸付金	56,666	46,666
破産更生債権等	7,990	2,000
長期前払費用	2,740	1,925
繰延税金資産	191,375	217,895
その他	60,244	109,134
貸倒引当金	△7,546	△2,000
投資その他の資産合計	333,204	399,703
固定資産合計	2,508,605	2,723,467
資産合計	10,737,623	10,977,369

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年2月29日)	当事業年度 (令和3年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	321,651	294,275
リース債務	3,231	2,007
未払金	191,168	162,293
未払費用	54,920	57,183
未払法人税等	139,807	168,165
未払消費税等	6,557	66,195
前受金	203,470	176,810
預り金	101,318	42,424
前受収益	6,900	6,352
賞与引当金	70,906	74,274
役員賞与引当金	19,000	—
返品調整引当金	78,073	82,182
その他	780	780
流動負債合計	1,197,786	1,132,946
固定負債		
リース債務	2,973	965
退職給付引当金	23,618	37,527
役員退職慰労引当金	8,616	8,666
その他	51,492	48,040
固定負債合計	86,700	95,199
負債合計	1,284,487	1,228,146
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金		
資本準備金	2,031,275	2,031,275
その他資本剰余金	35,352	35,352
資本剰余金合計	2,066,627	2,066,627
利益剰余金		
利益準備金	81,168	81,168
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	4,943,417	5,237,874
利益剰余金合計	5,024,586	5,319,043
自己株式	△781	△781
株主資本合計	9,451,707	9,746,164
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,428	3,058
評価・換算差額等合計	1,428	3,058
純資産合計	9,453,136	9,749,222
負債純資産合計	10,737,623	10,977,369

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成31年3月1日 至 令和2年2月29日)	当事業年度 (自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日)
売上高		
製品売上高	5,650,572	5,542,437
商品売上高	29,243	26,980
その他の売上高	799,648	737,101
売上高合計	6,479,464	6,306,519
売上原価		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	78,445	156,626
当期製品製造原価	3,841,902	4,038,339
合計	3,920,348	4,194,965
製品他勘定振替高	950	109
返品調整引当金繰入額	3,939	4,109
製品期末たな卸高	156,626	302,297
製品売上原価	3,766,711	3,896,667
商品売上原価		
商品期首たな卸高	250	—
当期商品仕入高	20,775	19,860
合計	21,026	19,860
商品期末たな卸高	—	—
商品売上原価	21,026	19,860
その他の原価	446,231	56,209
売上原価合計	4,233,969	3,972,738
売上総利益	2,245,495	2,333,781
販売費及び一般管理費	1,564,820	1,366,138
営業利益	680,675	967,642
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,558	3,086
不動産賃貸料	75,724	73,896
その他	1,312	2,435
営業外収益合計	79,595	79,419
営業外費用		
支払利息	278	131
不動産賃貸費用	56,386	47,217
その他	315	286
営業外費用合計	56,980	47,635
経常利益	703,290	999,425
特別利益		
保険解約返戻金	52,002	—
特別利益合計	52,002	—
特別損失		
固定資産除却損	49	62
リース解約損	192	—
減損損失	—	244,315
運営契約解約金	68,502	—
ソフトウェア開発中止損	142,170	—
特別損失合計	210,914	244,377
税引前当期純利益	544,378	755,048
法人税、住民税及び事業税	249,131	260,400
法人税等調整額	△83,104	△27,238

法人税等合計	166,026	233,162
当期純利益	378,351	521,886

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 平成31年3月1日 至 令和2年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,361,275	2,031,275	35,352	2,066,627	81,168	4,792,494	4,873,663
当期変動額							
剰余金の配当						△227,429	△227,429
当期純利益						378,351	378,351
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	150,922	150,922
当期末残高	2,361,275	2,031,275	35,352	2,066,627	81,168	4,943,417	5,024,586

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△781	9,300,785	1,817	1,817	9,302,602
当期変動額					
剰余金の配当		△227,429			△227,429
当期純利益		378,351			378,351
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△388	△388	△388
当期変動額合計	—	150,922	△388	△388	150,533
当期末残高	△781	9,451,707	1,428	1,428	9,453,136

当事業年度(自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,361,275	2,031,275	35,352	2,066,627	81,168	4,943,417	5,024,586
当期変動額							
剰余金の配当						△227,429	△227,429
当期純利益						521,886	521,886
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	294,457	294,457
当期末残高	2,361,275	2,031,275	35,352	2,066,627	81,168	5,237,874	5,319,043

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△781	9,451,707	1,428	1,428	9,453,136
当期変動額					
剰余金の配当		△227,429			△227,429
当期純利益		521,886			521,886
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			1,629	1,629	1,629
当期変動額合計	—	294,457	1,629	1,629	296,086
当期末残高	△781	9,746,164	3,058	3,058	9,749,222

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成31年3月1日 至 令和2年2月29日)	当事業年度 (自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	544,378	755,048
減価償却費	318,871	90,625
減損損失	—	244,315
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	904	△5,901
賞与引当金の増減額 (△は減少)	26,434	3,368
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△35,000	△19,000
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	1,000	13,909
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△36,199	50
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	3,939	4,109
受取利息及び受取配当金	△2,558	△3,086
支払利息	278	131
固定資産除売却損益 (△は益)	49	62
ソフトウェア開発中止損	142,170	—
保険解約返戻金	△52,002	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△229,630	99,368
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△317,900	△206,014
仕入債務の増減額 (△は減少)	19,443	△27,375
前受金の増減額 (△は減少)	184,935	△26,659
その他	182,120	△239,432
小計	751,234	683,517
利息及び配当金の受取額	2,558	992
利息の支払額	△278	△131
法人税等の支払額	△273,363	△230,973
営業活動によるキャッシュ・フロー	480,151	453,405
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社株式の取得による支出	△18,618	—
有形固定資産の取得による支出	△20,092	△45,271
無形固定資産の取得による支出	△417,011	△447,507
貸付けによる支出	△70,000	—
貸付金の回収による収入	3,333	9,999
定期預金の預入による支出	—	△3,000,000
定期預金の払戻による収入	3,000,000	—
保険積立金の解約による収入	107,329	—
その他	△6,503	△3,462
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,578,437	△3,486,241
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△225,523	△226,073
リース債務の返済による支出	△5,653	△3,231
財務活動によるキャッシュ・フロー	△231,176	△229,305
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,827,411	△3,262,140
現金及び現金同等物の期首残高	4,056,395	6,883,807
現金及び現金同等物の期末残高	6,883,807	3,621,667

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

当社の報告セグメントはエンターテインメント事業のみの単一であるため、記載を省略しております。

(持分法損益等)

当社が有している関係会社は、利益基準及び剰余金基準から見て重要性の乏しい非連結子会社であるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成31年3月1日 至 令和2年2月29日)	当事業年度 (自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日)
1株当たり純資産額	1,080円70銭	1,114円54銭
1株当たり当期純利益	43円25銭	59円66銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成31年3月1日 至 令和2年2月29日)	当事業年度 (自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	378,351	521,886
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	378,351	521,886
普通株式の期中平均株式数(株)	8,747,270	8,747,270

(重要な後発事象)

該当事項はありません。